

# 桐生西ロータリークラブ週報

2009-10年度RIテーマ

ジョン・ケニーRI会長 ロータリーの未来はあなたの手に



例会日時 毎週金曜日 12:30～13:30  
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス  
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777  
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi  
 会長 下井田秀一 クラブ会報・雑誌委員長 松原 豊  
 幹事 向田 靖 委員 井本上輔・正田恵一

No. 1759

2010年3月12日発行

## 第1867例会 (2010・3・5) 報告

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. 点 鐘       | 7. 食 事          |
| 2. 国歌斉唱      | 8. 委員会報告        |
| 3. 四つのテストソング | 9. 卓 話 書家 亀井兼吉様 |
| 4. 来訪者紹介     | 10. 点 鐘         |
| 5. 会長報告      | 11. ロータリーソング    |
| 6. 幹事報告      |                 |

### ◆ピジター

卓話者 書 家 亀井兼吉様  
 新田RC パスト会長 荻原 泉君

### ◆バナー交換

卓話者 亀井兼吉様のご案内役でお越し下さいました新田RC・荻原泉君とバナー交換をしました。



### ◆会長報告

下井田会長

- 明日6日(土)に会員増強代表者会議がクレインパーク山楽荘で開催され、会長幹事が出席致します。
- 明後日7日(日)11時～、館林ミレニアムRC創立10周年記念式典がレストラン・ジョイハウスで開催され、会長幹事で出席して参ります。
- 過日、桐生赤城RCと合同で開催致しました講演会の講師・瀬谷ルミ子さんからお礼状が届きました。講演謝礼金と募金は全てJCCPの支援活動を通じて現地の人々に確実にお届けしますと、御礼の言葉と共に記されております。
- 2月21日(日)に根本地区社会奉仕委員長以下4名が参加された吾妻山に炭を播く活動のお礼状が、「森林の会」代表 宮下正次様より、「機関誌「森林だより」と共に届いております。今後の活動支援と「森林の会」への入会依頼もあわせて寄せられております。

### ◆幹事報告

向田幹事

- ◇ロータリーの友3月号を配布いたしました。
- ◇ガバナー月信3月号が配信されました。(各テーブルに配布)
- ◇武井善作会員よりニューモラルNo.487を15部頂戴しました。
- ◇瀬谷ルミ子様よりお礼状、JCCPニュースター、JCCPパソフレット他、(財)前橋観光コンベンション協会より「好きですまえばし第31号」、以上のものが届いております。

◇例会変更のお知らせ

前橋中央RC 3/17,3/31(休)  
 ◇クラブ会報が到着しています  
 桐生RC 3/1 桐生南RC 2/17 桐生赤城RC 2/23

◆食事メニュー 1202キロカロリー  
 じゃが芋のそぼろあんかけ、白身魚の甘酢ソース、香の物、白飯、大根と油揚げのしらすスープ、春雨とハムのサラダ、コーヒーゼリー

### ◆委員会報告

□出席委員会 天沼委員  
 総数48名(免除者8名のうち4名出席の為4名を除く)  
 出席率対象者44名、出席率対象者出席人数37名  
 欠席者7名(内前メイク2名) 出席率88.64%  
 前々例会修正出席率100% (最終欠席者0名)

□ニコニコBOX委員会 石川委員長  
 メイクにきました 新田RC・荻原泉君  
 亀井先生、卓話ありがとうございます

武井君、稲森君、向田君、石川君、松原君、横塚君  
 結婚・誕生祝いをいただいて 深沢君  
 メディアグロース本社・工場新築おめでとうございます  
 天沼君  
 出席できなくてすみません 下山君

□ロータリー財団委員会 前原委員  
 亀井先生、卓話ありがとうございます  
 稲森君、松原君、横塚君  
 結婚・誕生祝いをいただいて 深沢君  
 出席できなくてすみません 下山君

□米山奨学委員会 船戸委員長  
 亀井先生、卓話ありがとうございます  
 稲森君、松原君、乾君  
 結婚・誕生祝いをいただいて 深沢君  
 出席できなくてすみません 下山君

□クラブ会報・雑誌委員会 松原委員長  
 ロータリーの友3月号の紹介を致します。  
 表紙は隠岐の島の馬追の様子と稲沢市の裸祭の様子でございます。  
 横組みのRI会長メッセージは6月開催のメント

リオール国際大会の出席要請となっております。加えまして3月は識字率向上月間ですので、様々な手段の識字率向上についての記事が掲載されております。

縦組みのクラブ探訪では高田ロータリークラブが、「上品で風味のよい」というタイトルで紹介されております。

当2840地区関連では、P32のわが地区自慢に牛久保ガバナーが寄せられた「会員増強をガバナー補佐とともに」が載っております。

**ゴルフ部**

松原部長

第3回ゴルフコンペが3月11日(木)に16名参加4組で開催出来ることに事になりました。パーティは4時からレストランやまもとで行いますので、宜しくお願い致します。

**卓 話**



書 家

亀井兼吉(祥齋)様

**「漢字の歴史」**

文字は今から3,500年前、中国で出来ました。亀骨文字といって、亀の甲羅と牛の骨に字を彫ったものがありました。甲骨文字が3,500年前、3,300~3,200年前頃になると青銅器に彫られた金文が出来ました。書くというより彫ったので、それが今でも印鑑に用いられ、その後、篆書(てん書)という文字になりました。これが紀元前1800年位まで続きましたが、中央政府が使う文字で一般には解らないだろうという事で隷書が生まれました。これを制定したのが万里の長城を造った秦の始皇帝です。それには相当な苦勞があったと思います。

その後、許慎という学者が篆書をまとめて文字を分類しました。

- 象形文字 (ものの形をかたどった字)  
牛、川、山、木、馬、日...
- 指事文字 (点や線などの印で表した字)  
一、二、上、下...
- 会意文字 (二つ以上の字を組み合わせた字)  
男、鳴、岩、明...

形声文字  
(意味を表す部分と発音を表す部分を組み合わせた字)  
晴、汁、拍、請、姓、祉...

この他にもありますが、これが文字の元素だと言って良いと思います。

隷書から楷書、行書、草書と今我々が使っているいくつもの書体ができました。更に漢字が成り立った様々な考え方を理解することで、漢字の面白さを深める事が出来ます。

大澤県知事が誕生された時、  
太田市新田商工会と農協が  
記念に贈った祥齋先生の書



**《次例会予告》**

3月19日(金) 養護老人ホーム『高津戸荘』職場訪問  
集合・昼食 12:00~12:30、訪問介護事務所

**「ロータリーの二大標語」と「四つのテスト」**

**【ロータリーの二大標語】**

ロータリーの二大標語とは、①「超我の奉仕 (Service Above Self)」であり、②「最もよく奉仕するもの、最も多く、報いられる (They Profit Most Who Serve Best)」である。①は1910年の始め、第9番目のクラブとして創立された、ミネアポリスRCの初代会長ベンジャミン・フランク・コリンズが「Service Above Self」を称え、②は1908年にシカゴRCに入会したアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱したものであるが、ともに1911年のポーランド大会で発表され、何れもロータリーの理想を効果的に表現したものであるとして、40数年の間ロータリアンの心にはっきり印象付けられてきたものであるが、1950年のデトロイト大会で、初めて正式にロータリー標語として採用されたのである。

「超我の奉仕」という日本語は己を犠牲にして他人に尽せという意味に解釈されるかもしれないが、そうではなく、「わが身よりまず奉仕を」ということであって、人間の本能ともいえる自己の利益の追求だけに没頭することなく、自分は正当な利益だけを受け、まず奉仕せよという意味である。

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」は成功する商売の道は奉仕することにかかっている。即ち、如何なる取引も両当事者を利益するものでなくてはならない。という理論から出たものである。

ところが、この Profit を「利益」とか「金儲け」とのみ解釈する一部の人間から、あまりにも物質的であると批難されたのである。これに対し、ポール・ハリスは「この Profit はドルでもセントでもなく、人生の Something である」といって金銭的な匂いを打ち消している。

この二大標語はご存じない方もいるかもしれませんが、各クラブの認証状の上段のロータリー・マークの左右に示されている。

この二大標語は、前者はロータリーの奉仕の哲学の標語であり、後者はその実践的な標語として関連するものであるが、結論するところ、共に先ず奉仕を優先せよということを行っているのである。

**【四つのテスト】**

「四つのテスト」は60数年も前からロータリアンの座右の銘とされているが、それは職業奉仕におけるだけでなく、社会においても個人の間にも起こる全ての事柄に対してテストするべきであるということである。「四つのテスト」の Four-Way は「四路の出会い」ところつまり「四辻」であり、Test は吟味すること、つまり Self Examination である。四辻に来たとき右にすべきか左すべきかを考えるということである。

このテストは、シカゴRCの会員で国際ロータリーの会長を務めたハーバード・J・テイラーによって考えられたものである。

この「四つのテスト」は、1943年1月のR I 理事会の承認の元に職業奉仕のプログラムに組み込まれ、ロータリーの四大奉仕の何れにおいてもきわめて重要な要素であると考えられるに至った。

このテストを複製して販売促進や利益増のための広告に使ってはいけないことになり、今やこの「四つのテスト」は世界各国に普及し、100以上の言語に翻訳されている。

日本の各RCは、活動計画書に掲載したり、或いは額にして事業所や学校などに配布したりしているし、例会時に斉唱している。だが、このテストの邦訳に疑義があり、その改訂を「ロータリーの友」を通してあるPG (大阪) から提案され、多くの賛意が発表されているが、未だその段階には至っていないようである。外国語を日本語に翻訳するのいわゆる直訳に偏し易く、難しいことである。

パスト会長 星野幸男